

昭和五十二年度法政大学社会学部卒業論文総目次

雑誌名	社会労働研究
巻	24
号	3
ページ	167-174
発行年	1978-02-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00018117

卒業論文目録（昭和五二年度）

第一部

松木 潤 労使協議制に関する一考察（西独・英・日本を参考にして）

青山 歌子 激動する農村
白井 幸子 工場誘致
横田千恵美 高度経済成長期の農業（一九五〇—六五）——食生活の変化を中心として——

坂崎 博憲 解雇——その制度と本質について

高谷 貢 農業共同化の実態

鈴木 好美 分節民主主義——地方自治の再生を求めて

熊坂 美智 都市と農村における文化

尾川 弘 農村における家族生活の構造

林 俊幸 大都市近郊における住民生活

雨宮 正一 これからの農業

古田 泰也 「これからの都市交通生活」

黒沢 輝明 神奈川の林業現状分析

内木場 洋一 都市問題の現実と都市計画

中原 直己 歪んだ大地に続く重い足跡——差別観念の歴史とその解放を探る

小林 理純 地域開発の歴史と第三次全国総合開発計画

鷺巣 高德 「農業政策論」のレポート

南 賢良 公共交通の確立

山野 恵充 工業化と農業

千葉 浩 住民運動と地方政治

伊藤 茂幸 協同組合としての農協——その歴史的展開および諸機能を中心として

藤生 雅直 大衆社会と大衆文化

川田 宏之 日本における軽種馬生産および競馬界に関する社会学的一考察

小林 範明 住民生活と地方自治

鈴木 雅士 農民の詩——アナキズムの土壌と叫び

中村 邦夫 「都市と流通」

卒業論文目録（昭和五二年度）

斎藤 淳子 日本の環境問題——大阪国際空港騒音問題について

鈴木 雅士 農民の詩——アナキズムの土壌と叫び

鈴木 克彦 都市における教育

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-----------------------------|
| 高松 博志 | 地方都市におけるあすの都市交通 | 田口 健一 | 現代日本大学論 |
| 加藤 誠 | 消費者運動の変遷とその役割 | 大滝 陽美 | 遊び考 |
| 宗本 浩二 | 我国木材業界の現状とその問題点 | 相原 寛 | 「善い」の意味について |
| 山瀬 次朗 | 低成長下の中小下請企業の方角 | 荒木 均 | 映像におけるモンタージュの現状・役割とその再生産論 |
| 鮎沢 隆 | 地方流通政策の現状と中小零細小売店の今後の私的考察 | 安斎 洋一 | 「現代音楽」の空虚な世界 |
| 木村 明良 | 戦後の中小企業における賃金・労働時間に関する考察 | 生島 隆 | 「現代流行歌への一考察」——歌に見るボクたちの現代史 |
| 館 郁夫 | 現代日本の小売業界 | 池田 靖 | 現代の攻撃者たち |
| 福島 紹雄 | 資本主義と中小企業問題 | 三沢 俊夫 | 日本学歴社会の実態とその未来 |
| 福田 祐司 | 低成長下におけるわが国の労働組合の組織現勢とその課題 | 細野 隆 | 戦後総合雑誌研究 |
| 堀江 啓一 | 東京都における中小企業労働者の労働条件とその政策 | 藤田 万丈 | 都市化社会と攻撃性 |
| 檜皮 光弘 | 中小企業の金融について | 北島 大也 | 戦後日本の労働運動と統一戦線の歴史 |
| 谷本 一成 | 環境変化と中小企業経営 | 近藤 幸徳 | 「チリ革命における中間層的展開」 |
| 村田 晃一 | 国独資下における中小企業問題の全機構化——日本中小企業論序説—— | 佐藤 邦男 | 一九二〇年代の統一戦線 |
| 小林 治久 | 「コミュニティ・スポーツ」論 | 国分 正人 | 激動の大正デモクラシー |
| 浅野 満 | 現代日本における政治的無関心の実像 | 中村 昭彦 | スペイン人民戦線の敗北の原因 |
| 稲葉 順子 | 大衆における信仰構造 | 原 永久 | スペインのアナーキストたち |
| | | 仲田 広道 | 現代ヨーロッパ政治情勢の一環としての軍事同盟とその起源 |
| | | 佐藤 雄司 | 中国革命と魯迅について |

野沢 昌史	フランス人民戦線の形成と発展
山崎 清貴	工業都市川崎の実態
奥津 佳也	富士スバルラインによる自然破壊の現状
小林 則夫	ナショナルビッグプロジェクト本州四国連絡橋の意義
田中 雄	尾瀬にみる観光開発と自然保護
杉田 隆	霞ヶ浦の富栄養化
渡辺 晃	地域開発計画と地方自治——「むつ小川原」志布志の計画策定決定過程——
増子 和男	都市化による環境変化——東京郊外日野を例にとつて——
山口 和子	人口政策と静止人口論
高橋 敏	住民運動と県民性（むつ小川原、志布志を例として）
橋本真喜子	環境と人間
辻 寛	箱根における観光開発
飛田美恵子	日本人の食生活の変化と食品添加物との関係
飯田 裕之	現代のマスコミにおける諸問題
中戸 直行	音楽と社会
根岸 均	天皇論
守矢 泉	児童文学における問題点とそれを打開する対策

卒業論文目録（昭和五二年度）

鈴木 芳博	民主主義のイデオロギー的位置について
浅井 逸平	日本近代化における特殊性
荻野 和子	現代青少年教育のひずみについて
本間 一路	生協運動と生協労働者の役割
渡部 勉	戦前における民衆運動
吉山 修平	経済民主主義と民主的規制
小池 純代	五四年度養護学校義務制とは何か——神奈川県のとりにくみから
相沢 悦子	社会状況を反映する媒体としての記録映画
小林 義夫	新宿カメラ大戦争とカメラのきむらの問題点
鈴木 基弘	「貧困化」論
阿部 健一	明治維新から農地改革に至る迄の日本農業についての研究
佐野 実	日本経済における金融構造とその過程
平林 隆男	日本経済における環境問題
佐藤 勝男	昭和恐慌の歴史的意義——国家独占資本主義への移行
阪野 吉雄	高度成長期における物価の動向——そのインフレーションのメカニズム
今川 英二	高度経済成長の要因について
嶋田 学	レーニン帝国主義論について
所 良雄	

大高 靖彦	価値形態論の展開	宮地 直子	表現の自由と統制
福田 吉記	経済理論による失業のない安定成長の発展	黒川 英彦	中岡哲郎論
大西 峰夫	地方債の資金に関する一分析	武井 美雄	高成長財政と経済構造
菅原 力	二〇世紀国家ソヴィエト	高沢 勇	都市集中型工業発展の不可避的条件とは何か ——昭和三〇年代の長野県を例に——
久永 政博	中東紛争について	佐々木晋哉	マルクスにおける疎外の位置と役割
百田 純則	アラブとイスラエル、その血でぬられた抗争の歴史	高須 健	経済学における数学利用の方法
山田 浩	中東の動勢	水野 真人	ガルブレイスの見解とその批判
間中 久男	チリにおけるアメリカの経済支配	本間 信和	一九一九～二〇年の工場評議会運動について
佐藤 勉	八〇年代に向けて北方領土問題を論ず	久保 公則	余暇と社会——疎外からの解放
林 佐一郎	朝鮮戦争	滝沢 昇	流通業における職業問題と農業問題
藤井 克則	低開発国における農業開発論	海老原 忠	一つの秘儀について
佐藤 勝也	ドイツ・ナチズムの発生について	矢野 勝己	現代日本社会と社会意識
大森 一之	「韓国」における政権史と「対日」「対米」関係について	松江 年泰	性別役割分業論からみる人、その自立
木鋪 厚男	アルゼンチンの政治と経済	石松 哲之	日本の社会と社会福祉
角田 優	戦後日本の農業問題	鍋西 一誠	現代社会の意識構造
大貫 久夫	柳田国男研究——〈柳田民俗学〉の視点からの日本文化論	佐藤 恭司	ドーア著『イギリスの工場、日本の工場』第四章 労働組合（翻訳）
白石 康弘	政治的無関心層の分析——大衆社会論批判	松本 弘三	マックス・ウェーバー研究
本多 輝彦	「連続射殺魔」永山則夫論——無知と貧困——	荒木 桂	J. Rawls「正義の理論」に関する考察
		若林 京子	近代化論から社会変動論へ——西欧モデルからの

離脱――

- 柴田 安彦 労働における疎外
- 尾崎 孝 マックス・ウェーバーの基本理論の考察
- 宇田川英夫 現代CMクリエイターの視点
- 丹野 仁 コミュニケーションのコマギレ
- 丸岡 茂 アメリカレシーン
- 尾崎 弘之 「現実逃避の一形態としての幼年期への退行」
- 岩崎 隆 私にとって時代体験とは何か？
- 鈴木 孝枝 お元気ですか
- 鈴木 洋一 批評空間に生きるための視座確立をめざして
- 田林 憲治 コペルニクスの転回による現代用語
- 深沢 忍 孤独なる休日
- 山科 浩也 洋服の酒落本
- 山城 朱実 家族――ここまで、そしてこれから
- 谷 正之 ドラッグマニユアル
- 歌代ゆり子 私における意識構造の考察
- 福岡 真弓 旅から旅へ
- 甲斐 真 私的映画作家論
- 安食 昭子 邂逅
- 仲川 明海 石の心
- 笠原 邦丸 触られざる触角

卒業論文目録（昭和五二年度）

- 矢田 公彦 リズムとバランス
- 中崎 隆司 青い知恵の実
- 西 清見 日本資本主義と国民の健康問題
- 小松 修 医薬品行政の在り方
- 土島 行雄 国と地方自治体の行財政の配分問題
- 田中 文夫 高齢化社会における医療保障
- 府川 正明 高齢化社会における社会保障について
- 渡井美律子 ライフサイクルステージにみる働く婦人の生活と保障
- 佐藤洋一郎 厚生年金保険制度と財政方式の転換について
- 土田 裕子 障害者問題――保障と障害者運動の視点から
- 大野 雅博 高齢化社会を迎える老人問題
- 篠原 弘明 老人問題について
- 葛西 章 企業の経済的（合理的）行動及びその問題点
- 和田 充康 三木清と弁証法の精神
- 武石 浩行 戦役
- 田中 宏和 「人間疎外論」の基本的視座――時代的困難克服の途
- 松村 芳明 戦後の国際通貨体制
- 大関 明彦 「教育福祉」の位置と展望
- 桜井 豊樹 日本における公的扶助制度の成立過程とその特質

若松 正男 日本人と福祉

金子美知恵 社会福祉労働者の実態と問題点——施設労働者を
中心として

松本あけみ 保母の労働と健康破壊について

大橋 勝雄 社会変動と労働者意識

沖田 正彦 大衆社会とその構造

中野内洋子 歴史における変革主体としての「市民」と「階
級」

浜田 幸代 カントにおける秩序の問題

藤岡 誠 「現象学的社会学」研究——アメリカ社会学の現
状を中心に——

山口 信由 総合技術教育の歴史——民衆教育の観点からソ連
を中心に——

横山 孝二 未組織労働者の組織化と労働戦線の統一

雨貝 栄治 日本社会主義論

小花 唯男 現代前衛党論への市民社会論的アプローチ——イ
ギリス前衛党を例にとって——

伊藤 正夫 高野実論——総同盟から総評へ——

小林 謙一 戦後史における労働運動の軌跡と今後の課題

吉村誠一郎 明治維新・明治天皇制の階級基盤と歴史的性
格

野村公太郎 ファシズムと「社会ファシズム論」にたいする一

考察

石河 循一 現代日本のマスコミへの疑問

谷口アツ子 しゃにかま

南雲 庄次 深夜のモノローグ——貯水塔の見える部屋から——

遠藤 隆一 道を求めて

川村 憲男 「メタファー論」その構造的考察

杉内 弘行 日本文化論——共同体と集団、祭りと神——

竹井 裕 巨石文化と古代人

鈴木 達也 淡い風の小景

富岡 寿博 問答無用

牧山 一喜 播種——七〇年代の感性——

山崎 暁 記号作用部の音楽的構造

神谷美喜子 破綻における社会学的考察

庄内 秀人 多少くだけた人生

箱田 節子 一人遊びのパラドクス

前林 幸江 女の自立の為の私的雑考

横山健太郎 文庫本は日本のペーパーバック文化となるか

青木 司 言葉から写真へ

荒井 勝啓 極私的日常生活の心象風景

相沢 尚 G・H・ミードの自我論の研究

池田 茂 トマス・ホッブズとカール・マルクスの社会構想

論の比較

田代 悦子 「概念」の形成のために

小林 直毅 近代フランスの社会学的実証主義の系譜とデュル

ケームの社会学——近代合理主義の体系に於ける
実証主義と社会有機体説の限界と業績に関する基
礎的考察——

尾上 直樹 現代における労働とは何か

栗田 寛 日本人の精神構造

新村 善幸 労働基本権の制限と保障

馬場 忠弘 「下請労働と労働災害について」——造船・建設

業を中心に

畑 信也 試用期間の法理論とその解雇基準

藤田 慎介 強度詐称の判例と法理

菊地 博 中村屋事件——指名ストの研究——

大場 武 職場交渉と職場闘争

安西 隆 思想・信条の自由と採用の自由

鈴木 正弘 バック・ペイ事件にみる現状回復の範囲（昭和五

二・二・二三第二鳩タクシー事件大法廷判決か
ら）

新田 直人 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精

卒業論文目録（昭和五二年度）

神」における近代的資本主義に関する一考察

後藤 隆志 現代の家族——父なき社会——の分析

長谷川 豊 『経済学・哲学手稿』『第一手稿』の労働の疎外

について

阿部 英一 思想の日常性

木村 一郎 マックスウェーバー方法論研究

高橋 清一 マックスウェーバー宗教社会学の視点

土屋 泰 J・S・ミルの社会学思想的考察

高地 孝 M・ウェーバーにおける「使命予言」と「市民

層」について

管原 裕史 日韓癒着の構図

第二部

鹿討 秀美 労働と人間・疎外

高橋 朋子 婦人労働のあり方

富越智恵子 家族の歴史と日本の家族制度

横田 泰江 青年の価値意識

清藤 政彦 アメリカの食糧戦略

早久 英治 戦後の蓄産業における豚の比重と輸入飼料の関係

宇野 晃 日本における農業問題

高橋 郷志 「高度経済成長」と食糧政策

丹羽 淳	食糧危機と発展途上国	小林 昌巳	戦後労働組合運動史
山本 幹	北海道の経済構造とその流通機構について	渡辺 義寛	昭和農業恐慌下の農業問題と日本ファシズムの形成
渡辺 正行	中国経済	室井 文雄	神楽坂の、ある労働組合運動の話
片岡 敏郎	学歴社会論	工藤 忠喜	吉野作造における民主主義
渋谷 登	大衆の力	一ノ関和一	岐路に立ち続ける婦人労働者——副題 真の男女平等をめざして
小栗 教子	安心してよい医療をうけられる老人医療費助成制度について	宮里 政弘	「資本主義的蓄積の一般的法則」と「窮乏化理論」
生方喜久恵	社会保障闘争としての堀木訴訟運動	峯 俊策	多国籍企業「帝国主義論」による分析
大工原まり子	変革期における婦人と社会保障	宮戸 妙子	戦後繊維政策史に関する一考察——主体に視点を据えて——
仲地 甫	年金問題		
高橋 妙子	婦人が働きつづけるうえでの母性保護の役割		
橋本 善之	革新の統一戦線		
中嶋 克之			
河内 泰彦	フランス共同政府綱領と日本の統一戦線		
小林富貴子			
須賀真律子			
侯野 弘和			
森 正明			
山田 徳治			
長 好男	中小企業と労働組合運動		
宮田 一男	地域共闘と労働運動		